



桜川保育園  
 〒300-0048 土浦市田中三丁目4番5号  
 【TEL】029-821-8341 【FAX】029-823-0390  
 【E-mail】sakuragawa@showfukai.com  
 【URL】https://showfukai.com/  
 【発行責任者】施設長 宇都野 和司  
 ※掲載写真は、保護者の同意を得ています。

# 桜川保育園 だより



## 自転車で体力づくり



▲「れんこんづくり」について説明を聞く園児と成長したれんこんの葉

桜川保育園では『保育所保育指針』に基づき、子ども一人ひとりの最善の利益を守り、健やかな成長を支えることを大切にしていきます。そのために、日々子どもと関わる職員自身が学びを重ね、資質や専門性を高めていくことが欠かせません。そのような中、外部研修への参加を積極的に推進することにも、園内研修や話し合いの場を充実させ、職員同士が学びを共有することで保育の質の向上に努めています。また、地域の特色を生かした活動にも取り組んでいます。

私たちが暮らす土浦市は、「自転車の街」として知られており、園では体力づくりの一環として自転車活動を行い、楽しみながら運動習慣を身につけていきます。さらに、日本一のれんこん産地という恵みを生かし、子どもたちが「れんこんづくり」に触れる食育活動も展開しています。「育てる・味わう」という体験を通じて、地域の農業や食文化を学び、食べ物への感謝の心を育んでいます。

今後も「学び続ける職員」と「地域に根ざした活動」の両輪で、子どもたちの豊かな育ちを支えてまいります。

今回の広報誌では、『保育所保育指針』に沿った各クラスの取り組みを特集しています。ぜひご覧ください。

学び続ける職員と  
 地域に根ざした活動を！

# 乳児保育

乳児期は、安心できる大人との関わりを通して心と体の基盤をつくる大切な時期です。泣き声やしぐさに丁寧に応え、一人ひとりの生活リズムに寄り添うことで、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えています。抱っこや語りかけを大切にしながら、愛情と信頼に包まれた中で心身の安定を図り、基本的な生活習慣の基盤を育むことをねらいとしています。

## ゆめ組（0歳児）

ゆめ組では、子どもたちと関わる中で、「明るくのびのびと生活し、自分から体を動かすことを楽しむこと」、「健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする」と、また、「保育園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じられるようにすること」をねらいとして保育を行っています。

まず、応答的な関わりとしては、子どもたちと目を合わせながらの語りかけを行っています。例えば、汗をかいたり服が汚れてしまったりした際には「べたべたして嫌だったね。着替えてさっぱりしようね」などの声をかけながら服を替え、保育者が子どもたちの気持ちを言葉にす

ることで子どもたち自身が不快さに気づき、心地よさを感じられるようにしています。食事では一人ひとり食べ物の大きさや量を調節しながら「おいしいね」「もぐもぐだね」と笑顔で優しく声をかけ、落ち着いた環境の中で安心感を得ながら、食べ物のおいしさに気づき、楽しい雰囲気の中で食べ物に興味を持てるようにしています。

次に、ゆめ組でよく行っている遊びを紹介します。保育者の足の上に乗る「バスっこ」や「バスにのって」の歌に合わせてゆらゆらとしたり、「いっぽんばし」などの触れ合い遊びを通したりしてスキンシップをたくさんとっています。子どもたちは、「まあるいたまこ」や「ん」とん」とんファンパンマン」のほっぺ」などの手遊び

も大好きです。また、シートやスランテープのカーテンを使って全身運動をすることで五感を楽しみ、子どもたちの興味を引き出す遊びも保育の中に取り入れています。

私たち保育者は、子どもたちが安心して過ごせる環境を整え、子どもたちと愛着関係や信頼関係を築いていく中で、保育者が子どもたちの安心できる場所となり、どんどん遊んでみよう、やってみようという思いが育めるようにして日々保育をしています。



スプーンを使って  
食べられるようになったよ



お外気持ちいい



ボール遊び楽しいね



# 1歳以上 3歳未満児の保育

1歳を過ぎると「自分でやってみよう」という気持ちが著しく大きくなります。挑戦できる環境を整え、できた喜びを一緒に分かち合いながら、自立への一歩を支えています。また、友だちや保育者との関わりを通してやり取りの楽しさを感じられるようにし、生活習慣を少しずつ身につけていきます。こうした経験が自分でやろうとする意欲を育み、生活習慣の自立や人との関わりを深めていくことをねらいとしています。

## はな1・2組 (1歳児クラス)

1歳児クラスでは、子どもたちが安心して生活を送り、自分の思いや欲求を表現できるようにすることを大切にしています。泣いたり笑ったり指差しをしたりと、様々な方法で気持ちを伝えようとする子どもたちの表情やしぐさといった小さなサインを受け止め、保育者が「〇〇したかったんだね」「うれしかったね」と言葉を添えることで、思いを受け止めてもらえる安心感を育み、言葉の獲得へとつなげています。

また、基本的な生活習慣の自立に向けて、一人ひとりの発達に合わせた援助を行っています。食事では「自分でやってみよう」という気持ち



自分でパクッ！  
一人で食べられるようになったよ♪



を尊重し、手づかみからスプーンへと移行する過程を見守っています。着脱や手洗いなどの身の回りのことにおいても「できた！」という達成感を大切にしながら、自分でできることを増やしていく、こうした経験を積み重ね、自己肯定感につなげていきます。

広い園庭やホールでは、体を思いきり動かす、「歩く」「走る」「登る」などの全身運動を楽しみ、戸外遊びでは、自然に触れながら季節の変化を感じたり、小さな虫や花に気づいたりする姿も見られます。友だちと同じ場所で遊ぶことが心地よくなり、少しずつ「一緒に遊ぶ」関わりへと広がっていく様子も見られます。



「くまちゃんもー」  
見よう！



虫いた！

# にじ組 (2歳児)

2歳児クラスでは、「自分でやってみよう」という気持ちを大切にしながら、身の回りのことに少しずつ挑戦できるようにしています。朝の支度や帰りの支度、衣服の着脱、手洗いなど、日常の中で自分の力で取り組める機会をたくさん設けています。まだ子どもたち一人だけでは上手くいかないこともあり、欲を受け止め、できた時には一緒に喜び合うことで達成感や自信につながっています。



小さな手で一生懸命頑張っています

また、言葉の発達が著しく伸びる時期でもあり、自分の気持ちや欲求を言葉や仕草で表現する姿が多く見られます。遊びの中で「かして」「いっしょにあそぼう」と友だちに声をかけるようになり、やり取りを楽しみながら関わりを広げています。時には思いが上手く伝わらず、ぶつかることもあり、保育者が間に入って気持ちを代弁したり、相手の気持ちに気づけるような言葉かけを行ったりしながら、少しずつ「一緒に遊ぶ楽しさ」や「友だちを思いやる気持ち」を育てています。



いはい~

かして~

戸外遊びやごっこ遊びなどの活動を通して、全身を動かしながらのびのびと遊ぶ中で、友だちと同じ遊びを共有したり、簡単なルールのある遊びに挑戦したりする姿も見られるようになってきました。砂場ではごちそうをつくって「ごちそう」とやり取りを楽しんだり、ブロック遊びでは友だちと力を合わせて高く積み上げたりと、協力して遊ぶ場面も増えてきています。時には年上の子の真似をして遊んでみたり、自分より小さな子に優しく声をかけてみたりするなど、関わりの幅も少しずつ広がっています。遊びの中での経験は、子どもたちにとって社会性の芽生えにつながる大切な時間となっています。



友だちとの遊びの中で言葉も心もぐんと成長中★



みんなでニコリ笑顔が育ちのしるし



# 3歳以上児の保育

3歳を迎える頃からは、自分の思いや考えを表現し、友だちと一緒に活動する楽しさが広がっていきます。協力や時にはぶつかり合う経験を通して、相手を思いやる気持ちや社会性が育ちます。また、遊びの中で工夫や発見を重ねることで、考える力や最後までやり遂げる力も育まれていきます。

こうした日々の活動を通して、自分の思いを表現しながら友だちと関わり、協調性や主体性を育むことをねらいとしています。

## ほし組(3歳児)

3歳児クラスでは、毎日の朝の会と帰りの会で当番の子がその日歌いたい曲を一曲選びます。子どもたちは「どれにしようかな」と真剣に考え、自分の思いで決めた曲をみんなの前で発表します。自分で選ぶ経験は主体性を育て、思いを言葉で伝える練習にもなります。また、クラスの仲間がその選択を受け入れ一緒に歌うことで、自分の考えが認められる喜びを感じ、みんなで声を合わせる心地よさを味わうことができます。

くの子が嬉しそうに参加します。「好きな遊びは?」「好きな食べ物は何?」といった内容が多く、先日の誕生会では「好きな車は?」と聞かれた誕生児が「シヨベルカー!」と答えると「ぼくも好き!」「おへやおもちゃのやつだ!」と声が重なり、拍手と笑顔で一気に場が盛り上がりました。質問する子どもは「何を聞くのかな?」と相手のことを考え、誕生児は自分の思いを言葉にして伝える経験を重ねます。友だちの答えに共感したり驚いたりしながら、相手の気持ちに気づき、クラス全体で喜びを共有することができています。

これらの取り組みは、『保育所保育指針』の3歳児の保育内容にある「基本的な生活習慣を身につけ、成功体験を積み重ねることで自分で考

えて行動する力を育てる」や「友だちと関わる中で思いを伝え、相手の気持ちに気づき、集団で過ごす楽しさを味わう」ことにしっかりと結びつけています。

今後もこうした機会を大切にし、子どもたちが主体的に関わり合い、安心できる温かな集団の中で自分を表現できる場を増やしていきたいと思えます。



今日の歌は  
なにかな?



好きな遊びは  
何ですか?



# つき組(4歳児)

4歳児クラスでは、身近な素材を使って環境にやさしい取り組みを楽しんでいます。5月から始めた、ペットボトルのリサイクル活動では、自宅から持ってきたペットボトルを、みんなで作った「リサイクルボックス」に入れて集めています。

「今日は何本持ってきたよ!」「あと少しで100本だね!」と、記録表を見ながら子どもたちはワクワクしています。100本集まる(ジュン)、頑張ったごほうびとして折り紙のメダルをもらえるのも楽しみのひとつで、「次はどんなメダルかな?」と嬉しそうなお表情で友だちと話している姿がとても可愛らしいです。



集まったペットボトルは、近くの「ヨークベニマル」のリサイクルステーションへ持っていくことになっていきますが、みんなで歩いて出かける道のりも、ちょっとした探検気分を味わいながら、「こんにちわ!」と地域の方に元気にあいさつする姿も見られ、社会とのつながりを感じ

る時間になっています。夏のプール遊びでは、集めたペットボトルを使って「イカダ」を作り、「浮かんだ!」「乗れたよ!」と大喜びで遊んでいました。リサイクルが楽しい遊びに変わる体験を通して、物に大切にすることを学び、物を使う楽しさを味わっています。



みんなでリサイクルボックスを作ったよ!



この活動を通して、子どもたちは、自然と環境へ関心をもち、協力することの大切さや、目標に向かって取り組む楽しさを感じています。これからも、子どもたちの「やってみたい!」という気持ちを大切に、楽しみながら学べる活動を、続けていきます。



ペットボトルがおもちゃに変身!



飛行機どこまで飛ぶかなあ?



そら組(5歳児)

そら組では、子どもたちが主体となって、自然やものづくりに親しみながら、協力する楽しさや、命の大切さを学んでいます。

園庭では、夏野菜や米の栽培、保育室では、メダカ、ダンゴムシ、アゲハ蝶の幼虫などの飼育を行っています。子どもたち自身が世話をすることで、命の成長に気づき、仲間と協力して達成する喜びを感じる姿が見られます。



虫かご掃除中

また、子どもたちの「気になる!」「もっと知りたい!」という気持ちを大切に受け止め、虫かごや図鑑などを用意することで、意欲的に関われる環境をつくることにも力を入れています。自発的な探究心を育むことで、学びの芽がぐんぐん伸びています。就学に向けては、時計を見て時間を意識しながら行動する習慣づくりや、思いやり、自己表現の力が育つよう、友だちと気持ちのすれ違いが起きたときには、話し合いや振り返りの時間を設けています。生活の中で時間を意識することで、見通しを持って行動する力が育まれ、友



ダンゴムシのお家をつくっているよ!

廃材を使った「舟づくり」などの製作活動では、子どもたち同士がアイデアを出し合いながら、創造力を発揮して取り組んでいます。自分たちで考え、形にしていくなかで楽しむ中で、ものづくりの面白さや達成感を味わっています。



廃材を使って舟づくり



アゲハ蝶になったよ

だちと関わる中では、「相手の気持ちになって考える」とを大切にしながら、「自分の気持ちも大切にすること」を伝えていくことで、少しずつ自分の思いを言葉にして伝える力や、相手の話に耳を傾ける姿勢を身につけていきます。日々の関わりの中で育まれるこれらの力は、就学後の集団生活においても大切な土台となります。これからも、子どもたちの「やってみよう!」「大切にしなごう!」を支えていきます。



ジョウロを持って畑に出発

お米の苗植えにも挑戦したよ



トウモロコシ収穫中

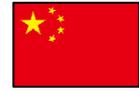


鉄棒や自転車も頑張っているよ





# 世界の料理を 食べてみよう



当園では、子どもたちが食への関心を深め、豊かな心と健やかな体を育めるように、様々な食育活動に取り組んでいます。今年度はその一環として「世界の料理」をテーマにした給食を始めました。

日本の家庭料理や伝統的な行事食だけでなく、世界にはまだまだたくさんさんの食文化があります。子どもたちが小さいうちからいろいろな国の料理に触れることで、食べ物への興味や好奇心を広げ、異なる文化に親しむきっかけにしたいと考えています。

これまでに登場した料理は、タイの「ガパオライス」、中国の「チャーシュー麺」「肉まん」、韓国の「ヤンニョムチキン」、イタリアの「ミラノ風チキン」などがあります。味付けや食材は子どもた



★タイ料理：ガパオライス★

ちが食べやすいように工夫しつつ、その国らしさが伝わるようにしています。子どもたちは「この国かな?」「なんていう名前のはん?」と目を輝かせながら楽しみにしており、普段は苦手な野菜や新しい味にも挑戦する姿が見られます。食事を通して、子どもたちは自然や世界に目を向けることができ、食べるのが学びにつながっています。また、食べ物の大切さや「いただきます」の気持ちを持つことで、心も体も健やかに育っていきます。

これからも、子どもたちが「食べる楽しさ」と「学ぶ喜び」を感じられるような給食づくりを続けていきたいと思えます。

## 保育園と家庭を つなぐ取り組み

保育園は、子どもたちが安心して過ごせる「もつひとつのおうち」であると同時に、保護者の皆さまにとっても心強い「もうひとつの味方」でありたいと考えています。子育ては楽しいことばかりではなく、悩みや不安を抱えることもあります。そんな時、少しでも力になれるよう、私たち保育者はさまざまな保護者支援の取り組みを行っています。

まず、日々の育児の悩みを保育士や看護師が、保護者の声に耳を傾け、共に考え、寄り添うことで、安心して子育てができる環境づくりを目指しています。

また、発達段階に応じた関わり方や、家庭でできる遊び・食育のヒントなどお便りや掲示板を通じて子育てに役立つ情報を定期的に発信しています。

その他にも働く保護者の皆さまを支えるために、延長保育や一時保育など、ライフスタイルに合わせた柔軟な保育体制も整え、急な予定や仕事の都合にも対応できるように、園全体でサポートしています。

さらに、地域の子育て支援センターや医療機関とも連携し、必要な支援につなげる手伝いや保護者が孤立せず、安心して子育てができるよう、地域とのつながりも大切にしていきます。

これからも、保育園は子どもたちの笑顔とともに、保護者の皆さまの安心と信頼を支える存在であり続けたいと思っています。どんな小さなことでも、どうぞお気軽にご相談ください。



1日の様子や出来事を丁寧に伝えるようにしています。



### Instagramで情報発信!!

社会福祉法人祥風会のInstagramで、桜川保育園での日常保育や行事をお届けしています。園の魅力をたくさん発信していきますので、ぜひ、チェックしてください。



先生と一緒にいると安心するね♡



▲一時預かり保育室（さくら組）

# 子どもの健康支援

## 安心と安全を守る取り組み

子どもたちが保育園で健康な状態で過ごせるよう『保育所保育指針』に基づき、「子どもの健康状態、発育及び発達の状態の把握」、「子どもの健康の保持と増進」、「疾病や障害への対応」の3つの項目を意識して健康支援を行っています。

「子どもの健康状態、発育及び発達の状態の把握」では、嘱託医師が定期的に健康診断を実施する際に看護師が同席し、保護者と子どもの情報を共有します。日々の健康状態については『コドモン』（連絡帳機能のあるアプリ）を使用した保護者からの

情報をもとに看護師や職員が連携し保育中の様子を観察しています。

「子どもの健康の保持と増進」では、保健計画に沿って季節に応じた感染症や体調不良の注意点について職員が把握していきます。各家庭に対しては、年4回発行する

「ほけんだより」を通して感染症や体調不良の注意点を告知せし、体調や成長発達など相談があれば内科・歯科健診時に医師に確認しています。

また、子どもたちが自分の健康に関心をもち、歯磨きなどを適切にできるようにフツ化物洗口の講習を実施しています。



▲「体調不良児対応型」の病児保育室

「疾病や障害への対応」として当園では体調不良児対応型の病児保育を開始してから4年目となりました。毎月10名〜20名程度の園児が発熱などの体調不良時に保護者が到着するまで待機するために病児室を利用しています。さらに、突発的な事故に備え今年度も全職員が乳幼児への心肺蘇生法と自動体外式除細動器(AED)の使用法を含む救命講習

を受講しています。これからも、子どもたちが健やかに成長できるように、保護者や関係機関と協力しながら職員一丸となり支援していきます。



# 救命講習会

## 大切な命を守る学び

### 8月2日



感じました。また、子ども特有の事故や体調の変化についても教えていただき、子どもが食べ物や小さなおもちゃを誤って飲み込んだ際の対応として、背部叩打法や腹部突き上げ法(ハイムリック法)を実践し、繰り返し確認しました。日ごろから観察力を高め、早めに異変に気付くことの重要性を再確認しました。

当園では、子どもたちの安全を守ることを第一に考えています。その一環として、土浦消防署の指導のもと、全職員を対象に「救命講習会」を開催しました。

講習では、心肺蘇生法やAEDの使用法、異物を喉に詰まらせた時の対応など、日常の保育の中でも起こり得る緊急事態に備えて実践的な内容を学びました。

実際に人形を使って胸骨圧迫を行ったりAEDを操作したりする練習では、手順やタイミングの大切さを改めて感じました。救命の場面では一分一秒が命を左右します。正しい方法を身につけることはもちろん、職員一人ひとりが落ち着いて判断し、行動できるように繰り返し訓練することの大切さを実



# 災害への備え

## 子どもたちの安全を守るために

当園では、子どもたちの命を守ることを最優先に、日々の保育の中で災害への備えを徹底しています。毎月実施している「避難訓練」では、「室内遊び中」「午睡中」「おやつ中」「食事中」など、さまざまな生活場面を想定し、職員が迅速かつ冷静に対応できるように訓練を重ねています。子どもたちも繰り返し行動する力を少しずつ身につけています。また、水消火器を使った「初期消火」や、煙の充満したテントの中を歩く「煙体験」など、実際の

災害を想定して、体験型の訓練も取り入れていきます。これにより、職員の防災意識の向上はもちろん、子どもたちも「自分の身を守る力」を身につけていきます。さらに、年に一度は、不審者侵入を想定した「防犯訓練」も実施し、子どもたちが保育者の合図や指示で迅速に行動できるように、万が一の事態に備えた体制づくりにも力を入れていきます。

今後、保護者の皆様と連携しながら、安心・安全な保育環境の維持に努めてまいります。

## 第54回 花いっぱい運動コンテスト

第54回花いっぱい運動コンテストにおいて、5年連続となる『土浦市まちづくり市民会議議長賞』を受賞しました。

花壇には、市から配布されたサルビアとマリーゴールドのほかに、園で大切に育てた様々な草花が色とりどりに植えられています。四季折々の草花が咲き誇る園庭は、子どもたちや地域の方々の目を楽しませていきます。

子どもたちは、花の成長を間近にし、種から芽が出て花を咲かせる過程に驚いたり喜んだりして観察しています。

こうした経験を重ねることで、小さな命を大切にする気持ちや、仲間と協力して育てることの大切さに気付き、子どもたちの心の成長へとつながっていきます。

これからも花いっぱいの園庭づくりを通して、子どもたちと共に自然の恵みや命の尊さを感じていきたいと思ひます。



今年度も「SDGs」と「食育」を兼ね、そら組(5歳児)が「ピザ作り」を行いました。子どもたちは野菜の収穫から調理まで、すべて自分たちで行い、ピザの生地も一から作り、収穫したばかりの「バジル」「ピーマン」「トマト」「ナス」をトッピングして手作り窯で焼き上げました。香ばしいにおいが広がる「早く食べたい!」と待ちきれない様子でしたが、焼きたてのピザを口に運ぶと「おいしい!」と笑顔がはじけていました。

「育てる」「調理する」「味わう」までの過程を通して、食の大切さや仲間と協力する楽しさを学びました。

# ピザ作り

7月17日

